

## mLANの将来性

2号にわたって紹介したmLANはMIDI信号とオーディオ信号が1本のケーブルで接続できますので配線がスッキリすることはご理解いただけたものと思います。実際にはマック以外のパソコンでも使えるのですが、ウィンドウズではまだうまく使えないようです。マックでも実際に使ってみると、多くの機器が一つのミキサーに殺到するときなどに一体どこの何が鳴っているのかすぐに判別できなくなるなどの問題があり、結局コンピュータを介在させた方がそのあたりの交通整理がうまくゆくようです。

またEtherなどの規格にはTCP/IPやNetwearなどの規格(プロトコル)が普及していますが、mLANにはまだこのプロトコルが決まっていまないのでデータ転送の統一規格がありません。ですから、mLANでインターネットのブラウザを使ったり、JAVAのアプレットを転送することは現状ではできません。あくまでも現在できるのはMIDI信号と、オーディオ信号、それにビデオ信号くらいのもので、その能力が十分に活かされているとは思えません。

一方ではマックなどでは現在普及し始めた100BASEの10倍の転送速度を持つ1000BASE G4などでは標準装備されるなど、速度的にはmLANに迫るパワーを付け始めています。

しかし、mLANの決定的な利点はホストコンピュータが不要で、mLAN端子を持つ機器同士を接続するだけでIN/OUTについての配線知識が殆ど不要になることです。

私は(・・・と第1人称で文章を書くことに抵抗がありますが)マック・ウィンドウズのバイ・ユーザーで、どちらもそれぞれの良さを認めています。以前あるパソコン雑誌の特集でマックとウィンドウズのどちらが優れているかという特集があり、殆どの項目で優劣がつかないか僅かにマック優勢にみえた最後に、マックは同時に複数のアプリが使えないということでウィンドウズの勝ちという結果を発表していたのを読んだことがあります。これは明らかに間違いで、その証拠にマックにはアプリケーションとしてウィンドウズを動かす、言い換えればマックのくせにウィンドウズのように振る舞うソフトがいくつかありますが、逆にウィンドウズがマックのように振る舞うことは大変難しいのです。このことは、マックはマックでありながら同時にウィンドウズの真似もするという完全な複数のアプリの並行処理がで

きるマシンであることがわかります。

昔ソニーのベータという規格のビデオデッキが優れていたにもかかわらずVHSという圧倒的攻勢(価格や販売戦略、傘下のメーカー数など)に破れたことを思い出します。しかし、今でも放送局ではベータが最も多く使われる規格であり生産をストップしているわけでもないのです。それは、映像のクオリティというシビアな要求に対してVHSはベータに劣るということをプロは知っていたからだと思います。

現在のマックとウィンドウズの関係が私にはこのベータとVHSの関係とオーバーラップします。私自身ウィンドウズを使っていてそのアプリケーションの圧倒的多数(逆に多すぎて迷う)に軍配をあげます。しかし、所詮はDOSのサポートで動くウィンドウズはそのメモリのやりくりにかなり余分なエネルギーを使い、mLANのような超高速処理はアプリケーションのパフォーマンスに重大な影響を与えます。ウィンドウズユーザーなら誰でも不思議に思うでしょうがRAMを128MB以上増やしても目に見える効果がありません。それに対してマックはメモリ増設は青天井。増やしただけパフォーマンスが向上し、同時に処理できるアプリケーションの数も増やせます。

このことがmLANをマックで使う利点であり、ICMCなどのコンピュータ・ミュージックの専門家集団の8割がマックユーザーであり、日本の大学で研究にコンピュータを使用する教官の7割がマックユーザーであるということの根拠となっているのではないのでしょうか。

そしてもう一つのマックの利点は、以前にも紹介しましたが、ハイパーカードやアップルスクリプトで誰でも自由にアプリケーションをデザインできるということです。マックにはウィンドウズほど多くのアプリケーション(特に日本語の)がありませんが、楽譜ソフトの「フィナーレ」のように、最初はマックOSのために書かれたものが多いのです。バージョンアップの頻度もウィンドウズほど頻繁でなく、何よりもOSが変わっても殆どのアプリケーションは動くことは助かります。

言い換えれば、マックユーザーは頻繁な機種買い換えに悩まされることなく一つのアプリケーションをじっくりと自分のものにする事ができるともいえます。

私のこの小論では市販アプリケーションの紹介に紙面をさくことは極力避け、音楽教育に必要な自分に合うソフトを自作出来る環境としてマックを取り上げることが多い理由がおわかりいただけるでしょうか。